

6日(木)	9.00—12.00 13.00—17.00	青少年教育 1, 青年団の歴史的考察と今後の課題 2, 青年学級の歴史的考察と当面する課題	福島大学学芸学部 助教授 県教委社会教育主事	堀口 知明 丹野 清栄
7日(金)	9.00—12.00 13.00—17.00	成人教育 1, 成人教育の概説(目標, 範囲, 形態) 2, 成人教育講座の開設, 運営	文部省	
8日(土)	7.00—12.00 13.00—17.00	青少年教育 1, 青年団の歴史的考察と今後の課題	福島大学学芸学部 助教授	堀口 知明
9日(日)	9.00—12.00 13.00—17.00	成人教育 1, PTAの諸問題 2, 戦後の婦人教育史	〃 県教委社会教育主事	〃 海野 昇雄
10日(月)	10.00	閉講式		

3 青少年教育

A 本年度における青少年教育の重点目標

勤労青少年の教育をどのようにして充実していくかということは、単に社会教育の領域だけの問題としてとりあげるだけでなく、学校教育を含めた、広い教育の領域で、総体的にすすめていかなければならない。とくに定時制高校、産業高等学校と関連させながらどのようにすすめていくかという問題については、未解決の問題も多く、その解決は、なお、今後に残されているといわなければならない。

本年度は、青少年団体の育成と協力、青年学級の充実という二つの重点目標を樹て、さらに青少年団体については、集団活動による社会道徳の振興 生活に即した学習活動の促進、そして少年団体の育成強化を努力目標としてすすんできた。

青年学級については、職業教育、科学教育の充実、国際理解のための教育、学習課程の研究と指導法の改善、講師組織の確立等の諸問題を取りあげ、市町村教育委員会と協力して振興に努力した。

青年学級も振興法の制定以来 7年目を迎え、新たな段階の問題に当面してきた。東白川郡古殿町青年学級を中心とした、青年学級の歩みは、従来までの欠点を反省し、長所を残し、新しい時代の地域の要望にこたえることのできる青少年を育成することを目標にして過去 3 年の実績を積み重ねてきたが、今後の新しい方向を示すものとして注目に価するといえよう。その実績は、「村づくりの青年学級」35年 1月 15日刊にまとめられている。

A 昭和34年度東北ユネスコ青少年成人教育指導者講習会

成人、青少年教育の中にユネスコの提唱する「国際理解と協力のための教育」をどのようにとり入れていくかということについては、いろいろと研究がなされているが、問題はむしろ今後の研究にまつところが多いといわなければならない。このような趣旨で各県で相互に開催されている東北地区の講習会を本年度は福島県を会場として開催した。

a, 期日 6月27日・28日

b, 会場 飯坂町 福島県婦人会館

c, 主催 日本ユネスコ国内委員会 福島県教育委員会

d, 参加者 東北六県の社会教育関係職員・ユネスコ関係団体役員 90名

e, 講師 日本ユネスコ国内委員

東京都立大学教授 小山 隆

国際基督教大教授 日高第四郎

福島大学教授 平井 博

f, 研究題目

(1) 国際理解と日常生活の結びつきをどのようにしたらよいか。

(2) 世界の人権宣言の普及について

g, この講習会は、青少年、成人部会に分かれ、さらに主題についてパネル討議を行い研究を深めた。

B 「国際理解と協力のための教育」の研究学校および学級委嘱

この教育の普及と徹底を期するため、とくにどのような教育内容、方法が、最も有効であるかを科学的教育実験によってたしかめることを目的として、2 年間にわたる継続研究をするため、研究学校、学級を委嘱した。

研究指定学校 福島県立白河女子高校

〃 学級 会津若松市青年学級

信夫郡吾妻村野田婦人学級

C 少年団体指導者講習会

少年教育の重要性にかんがみ、少年指導者に対し、団体に必要な研修を行い、その資質の向上をはかり、少年団体の育成振興をはかる。

(1) 期日 7月 4・5・6日

(2) 会場 猪苗代町 積慶寮

(3) 講師 福島大学助教授 西間木リツ

(4) 参加者 少年団体指導者、市町村教委職員、青婦人団体役員 60名

(5) 研究課題 少年団体指導の方法と技術

(6) 県内には、各種の少年団体、こども会等があり、それぞれ活発に活動しているが、指導技術については、まだまだ研究の余地があり、この講習会は大いに益するところがあった。

D 青年団体指導者講習会

(1) 青年団体の当面している諸問題を研究し、今後の活動の方向を究明する。